

事業所名	グループホーム赤い屋根の家 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成 16年 8月 31日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 病院事務長 資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上・臨床工学技士資格取得 B:現職 病院介護支援専門員 資格・経験 看護師歴20年以上・介護支援専門員歴3年
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>(1) 「一緒に泣いて一緒に喜び、傍らに付き添いながら手のひらのぬくもりを感じられる介護をしたい」「一人ひとりを大切にしたい介護ができる手作りの施設を作りたい」という開設者の思いを、施設管理者をはじめ職員が共有して介護に取り組んでいる。そのことが、開設者や職員の言葉、介護姿勢、利用者の表情から伝わってきた。</p> <p>(2) 「料理が上手」「クラフトが上手」など職員一人ひとりの特性(特技)を「介護サービスに生かしていこう」とする介護姿勢がある。利用者の生きがいを考えようという姿勢が介護方針に表されている。</p> <p>(3) 平屋づくりの同じ建物の中に、ドアなどで仕切られて「デイサービス施設」が併設されているため、交流することが容易で社会的に疎外感のない生活が送れる。</p> <p>(4) 施設内に季節感を感じられる「ひまわり」の手作りの貼り絵や開設者や職員の思いを表現する詩などが掲げられ、狭いながらも明るくほのぼのしている。</p> <p>(5) 笠岡市の大井ハイランド住宅団地の入り口に近い高台にあり、全室からの眺めはよく、眼下には田園風景や遠くには山々が望める。季節感を感じられる環境である。</p> <p>(6) 食事は副食の数が多く彩りもよく、高齢者の嗜好に合わせてあり、美味しい。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
運用面で配慮されているので特に問題はないが、洗面所と車椅子用のトイレが併設されている。管理者はこの点をすぐに改善することだった。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>○「私が年老いたとき、どう生活するか?」ということが施設開設の原点である。</p> <p>○「共に喜び、共に悲しみ、寄り添いながらその人らしさを尊重した自然な介護のできる施設を創りたい」「触れ合いの中で、職員と入居者がともに生きがいを感じられる介護の仕事がしたい」という開設者の人間としての強い「思い」からはじまった施設である。</p> <p>○「みんな一緒に楽しい笑顔」「のんびり、ゆっく、できることをみんなでがんばろう」という生活に密着した施設理念がこの施設の目標が表れている。</p> <p>○陽が当たり、風や光を感じ、花が咲き、人の気配がしている。自宅に帰りたいと言われる老人に対して、自分たちが家族の代わりになってあげるといふ気持ちで接していることが感じられる。生きている証が実感できる介護を目指している。</p> <p>○一人ひとりの生き方や経験を尊重し、「その人らしく生きる」ことができる介護を目標としている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>○管理者と職員は、開設者の老人介護への思いを共有し、利用者一人ひとりの過去の経験と要求を大切にしている。食事の職員との会話などから、その人らしく生活していく見守りと寄り添いの介護を実践していることが感じられた。</p> <p>○豊かな施設介護と生活環境を作るには、職員一人ひとりが生きがいをもちて介護業務ができる職場づくりが大切だと考えている。職員の特性を生かす方針が、狭いながらも手作りの暖かさを感じられる食堂兼居間の共有空間で感じることができた。</p> <p>○ホームで飼っている猫「ハナちゃん」の世話をすることや、ハナちゃんが入居者に寄り添ってくることで入居者の気持ちに穏やかさが出ていると思われる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にしたい整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	病気の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>○開設者も施設介護の状況を十分に理解して、自ら入居者と接し、入居者の要求を職員と共有することで、介護の質の向上や施設環境の改善を目指している。</p> <p>○食事や入浴時の介助では必要以上に手を貸すことなく、見守り、寄り添う気持ちで入居者の行動を理解しようとする介護方針が実感できた。</p> <p>○日常生活の中で、野菜作りや食事の片付けなどを通して、利用者のこれまでの人生経験を尊重し、さげなく作業に誘導している。日常生活での利用者の明るい「笑い声」からその人らしい生活ができていることが伝わってきた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。(記述)		
	<p>○同一の施設にあるデイサービスの職員と入居者が、垣根を越えて介護サービス向上のため協力している。</p> <p>○開設者、管理者、職員が入居者一人ひとりの思いを大切に、元気に明るくともに生活できるように、入居者の要求を理解し共有することで介護の質の向上を目指している。</p> <p>○ホームと家族とが家族会の交流を通して絆を深め、職員と家族が協力して、入居者のその人らしさを個性を發揮できるように努めている。</p>		